



業務プロセス設計書

年次レポートの出力

業務プロセス設計書の改訂履歴

日付	バージョン	役割	名前	組織	職務	備考
2017 年 8 月 1 日	1.0	作成者	Olfa Ben Taarit	ACME Systems Inc.	SME	作成 V 1.0
2017 年 9 月 6 日	1.2	レビューアー	Vrabie Stefan	UiPath	ビジネスアナリスト	承認 V 1.0

目次

1.はじめに	3
1.1 本文書の目的	3
1.2 目的	3
1.3 業務プロセスに関する主な担当者	3
2.業務プロセス現況詳細	3
2.1 業務プロセス概要	4
2.3 業務プロセスマップ詳細	6
2.4 業務プロセス手順詳細	8
2.5.例外処理	11
2.6 エラーマッピングと処理	12
2.7 対象アプリケーション詳細	13
3.開発詳細	13
3.1 開発の前提条件	13
3.2 パスワードポリシー	13
3.3 資格情報とアセットの管理	13
4.文書の承認フロー	14
5.その他	14
5.1 UiPath 自動化プロセス詳細	14

1.はじめに

1.1 本文書の目的

業務プロセス設計書が記述するのは、UiPath ロボティックプロセスオートメーション（RPA）テクノロジーを使用する、オートメーション用に選択された業務プロセスです。

本文書では、当該プロセスの一部として実行する一連の手順のほか、自動化前の状態および要件を記述し、RPA デベロッパーが参照するための基本的な設計用資料です。対象となる業務プロセスのロボットによる自動化を実行するために必要とされる詳細情報が記載されています。

1.2 目的

このプロセスは、経理部門の **ACME Systems Inc.** で実施されている大規模プロジェクト計画の一環として RPA 用に選択されたものです。

このプロセス自動化は、プロジェクトのビジネスケースに関連しており、主に以下の項目を果たすことを目的としています。

- 処理の高速化
- 重複する作業の削減
- 全体的なパフォーマンスと信頼性の向上

1.3 業務プロセスに関する主な担当者

本文書は一連のプロセスの要件を簡潔かつ網羅的に記載しています。内容は当該プロセスにおける分野別専門家（SME）のインプットに基づきます。

エスカレーション先については以下の表をご確認ください。

役割	名前	実施日	メモ
プロセス SME	Aurel Vlaicu	未定	ビジネス例外およびパスワードに関する問合せ先
レビューアー/責	Sergiu	未定	プロセス例外の POC

任者	Celibidache		
運用の承認	Nicoale Herlea	未定	エスカレーション、遅延

2.業務プロセス現況詳細

2.1 業務プロセス概要

RPA 実装対象として選択されたプロセスに関する自動化前の基本情報

プロセス現況詳細	
プロセスの正式名	Generate Yearly Report for Vendor (ベンダー向け年次レポートの出力)
機能	レポート出力
部門	経理
プロセスに関する簡単な説明 (運用、作業、結果)	特定ベンダーの月次レポートをすべてダウンロードし 年次レポートを出力
当該プロセスに必要なロール	System 1 ユーザー
プロセスの実行スケジュール	年次、1 月中旬
1 か月あたりの処理件数	7～15 社 (ベンダー数)
件数あたりの平均処理時間	ベンダーあたり 15 分
ピーク時間	ピーク時間なし
この作業をサポートする FTE 数	1
例外率のレベル	各ベンダーの 1 月と 3 月の月次レポートが出力されないことがあるがその場合は 無視してもよい

入力データ	ベンダーの TaxID
出力データ	年次レポート - Excel ファイル アップロード ID

2.1.1 RPA の作業スコープ

本プロセスにおける RPA の対象となる作業および除外項目を以下に記載します。

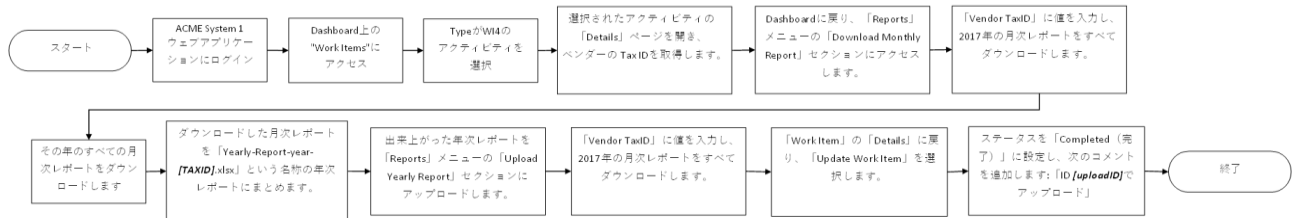
- RPA 対象範囲 - 該当の業務プロセスを 100%自動化

2.1.2 RPA の除外事項

RPA の除外事項となる作業はありません。

2.3 業務プロセス詳細

この章では選択された業務プロセスについて詳しく説明します。開発者はこの情報を参考にしてプロセスを自動化します。



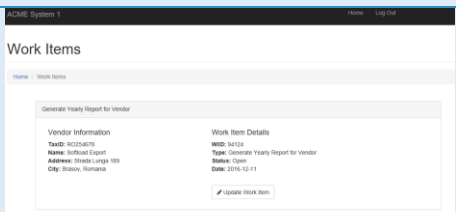
手順	簡単な説明
1.1	ACME System 1 ウェブアプリケーションを開きます。
1.2	System 1 にログインします。必要な入力データ: メールアドレスとパスワード
1.3	Dashboard（メイン画面。メニュー項目を選択できます。）にアクセスします。
1.4	Work Items の一覧にアクセスし、実行可能なすべてのタスクを表示します。（出力データ: タスクリスト）
1.5	WI4 タイプの アクティビティごと に以下の手順を実行します。
1.5.A	選択されたアクティビティの「Details」ページを開いて、ベンダーの Tax ID を取得します。（出力データ: TaxID）
1.5.B	Dashboard に戻り、「Reports」メニューの「Download Monthly Report」セクションにアクセスします。
1.5.C	「Vendor TaxID」に値を入力し、2017 年の月次レポートをすべてダウンロードします。
1.5.D	ダウンロードした月次レポートを「Yearly-Report-year-[TAXID].xlsx」（Excel ファイル）という名称の年次レポートにまとめます。
1.5.E	出来上がった年次レポートを「Reports」メニューの「Upload Yearly Report」セクションにアップロードします。
1.5.F	「Vendor TaxID」に値を入力し、年を 2017 に設定して、ハードディスク上のファイルを選択します。一意のアップロード ID が返されます。（出力データ: アップロード ID）
1.5.G	「Work Item」の「Details」に戻り、「Update Work Item」を選択します。
1.5.H	ステータスを「Completed（完了）」に設定し、次のコメントを追加します:「ID [uploadID]でアップロード」。
1.6	次の WI4 アクティビティに進みます。

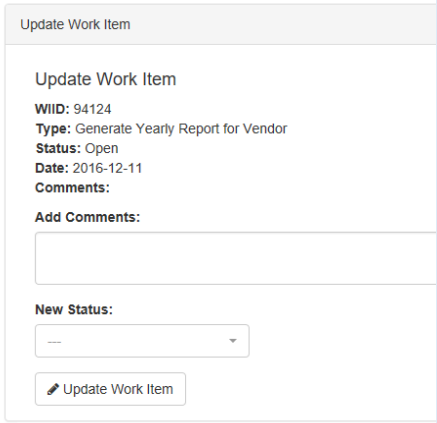
2.4 業務プロセス手順詳細

キーストロークやクリックなどプロセスにおける一連の手順はスクリーンショットを使って定義します。データに関して制約がある場合は、保険証券番号や顧客 ID、銀行の口座番号などの機密情報部分は見えないように処理します。

#	具体的な手順 説明	スクリーンショット	想定される 結果	備考
1.1	ACME System 1 ウェブアプリケーションを開く		System 1 WebApp が 開く	想定される例外と 対処: -ウェブアプリケーションが使用できない場合は例外処理を実行
1.2	System 1 にログインする。 必要な入力データ: メールアドレスとパスワード		Dashboard にアクセスする	想定される例外と 対処: - メールアドレスまたはパスワードが間違っている場合は例外処理を実行
1.3	Dashboard にアクセスする（メイン画面です。ここでメニュー項目を選択。）		メニューに各項目が表示される	

1.4	Work Items の一覧にアクセスし、実行可能なすべてのタスクを表示する（出力データ：タスク）。		タスクリストが表示される	
1.5	WI4 タイプのアクティビティごとに次の手順を実行する。			想定される例外と対処： -「ベンダーの月次レポートの処理」タイプのタスクが存在しない場合は例外処理を実行
1.5.A	選択されたアクティビティの「Details」ページを開いて、ベンダーの Tax ID を取得する（出力データ：TaxID）			
1.5.B	Dashboard に戻り、「Reports」メニューの「Download Monthly Report」セクションにアクセスする。			
1.5.C	「Vendor TaxID」に値を入力し、2017 年の月次レポートをすべてダウンロードする。			

1.5.D	ダウンロードした月次レポートを「Yearly-Report-2017-[TAXID].xlsx」(Excel ファイル)という名称の年次レポートにまとめる。			
1.5.E	出来上がった年次レポートを「Reports」メニューの「Upload Yearly Report」セクションにアップロードする。			
1.5.F	「Vendor TaxID」に値を入力し、年を2017に設定して、ハードディスク上のファイルを選択すると、一意のアップロードIDが返される。(出カデータ: アップロードID)			
1.5.G	「Work Item」の「Details」に戻り、「Update Work Item」を選択する。			

1.5.H	ステータスを「Completed（完了）」に設定する。次のコメントを追加する:「ID [uploadID] でアップロード」。			
1.6	次の WI4 アクティビティに進む。			

2.5.例外処理

オートメーションプロセスで確認可能な例外タイプは下記表の通りに分類できます。

分野	既知	不明
ビジネス例外	以前に経験した状況。想定されるシナリオが定義されていて、事例ごとに処置や対策が明確に定義されている	一度も経験したことのない状況 – めったに発生しない状況。外部要因が原因の可能性がある

上記の基準を参考に、処理中に確認された既知の例外はすべて以下の表に記録し、ロボットでの対応が必要な想定アクションを事例ごとに割り当てます。

表には必要なだけ行を挿入し、すべての例外をリスト形式で詳細に記録します。

#	例外名	例外が発生した手順	要因	必要な処置
1	メールアドレスまたはパスワードの誤り	手順番号 1.2	ユーザー名またはパスワードの誤りを示すメッセージが存在する場合	exceptions@acme-test.com に以下の内容のメールを送信します 「こんにちは。 ユーザー名またはメールアドレスが間違っています。 確認のうえ、もう一度やり直してください。 よろしくお願いします」

2	「バンダーの月次レポートの処理」タイプのタスクが存在しない	手順番号 1.5		プロセスを停止する
---	-------------------------------	----------	--	-----------

それ以外の予期しないあるいは未知の例外が発生した場合は、オリジナルのメールとエラーメッセージのスクリーンショットを添付し、ロボットから exceptions@acme-test.com にメールによる通知を送信します。

2.6 エラーマッピングと処理

エラー、警告、通知はすべて、それらの説明とロボットでとるべき処置を事例ごとにまとめてリストに集約します。

オートメーションプロセスで確認されたエラーは下記表のとおりに分類できます。

分野	既知	不明
テクノロジー	以前に経験した状況 - アクションプランまたは対処方法がある	一度も経験したことのない状況、またはプロセスで使われたアプリケーションが原因で発生した可能性がある状況

上記の基準を参考に、プロセス中に確認されたエラーはすべて以下の表に記録し、ロボットでの想定アクションを事例ごとに割り当てます。

表には必要なだけ行を挿入し、すべてのエラーをリスト形式で詳細に記録します。

E #	エラー名	エラーが発生した手順	要因	必要な処置
1	アプリケーションが応答しない / ページが読み込まれない	すべての手順	応答不可 / 空のページ	リトライを 2 回実施。 アプリケーションを終了してシーケンスを再実行

*必要に応じて追加のエラーマッピング表を挿入し、詳しい説明を記載してください。

2.7 対象アプリケーション詳細

次の表では、自動化されたプロセスの一部として使用される全アプリケーションを一覧で表示します。

#	アプリケーション名とバージョン	システム言語	ログインモジュール	インターフェース	環境/ アクセス方法	備考
1	ACME System 1	EN	ウェブ	ウェブ	ウェブブラウザ	
2	Microsoft Excel	EN	該当なし	クライアント	ローカルデスクトップ	

3.開発詳細

3.1 開発の前提条件

- 開発用に開発またはテスト環境が用意されていること。
- 開発/テスト環境は稼働環境とまったく同じであること。
- 開発者には、十分な権限を設定したシステムおよびアプリケーションに対するアクセス権を付与すること。

3.2 パスワードポリシー

ユーザーはパスワードを自身が管理します。それ以外のポリシーは特にありません。

3.3 資格情報とアセットの管理

ログイン情報（ユーザー ID とパスワード）は **Windows 資格マネージャー**または **Orchestrator のアセット** に保管します。

4.文書の承認フロー

バージョン	フロー	役割	名前	組織 (部門)	承認と日付：
1.0	文書の作成者	ビジネスアナリスト	姓・名		
1.0	文書の承認者	ビジネスプロセスの責任者	姓・名		
1.0	文書の承認者	開発/RPA ソリューションアーキテクト	姓・名		

5.その他

5.1 UiPath 自動化プロセス詳細

注：この手順は、オートメーションプロセスの完了後に記入のこと

オートメーション概要：（開発、テストなどの期間）

ロボットのタイプ： Unattended Robot

人間による介入が必要なレベル：

Orchestrator の使用：

オートメーションプロセスに記録されている例外：

オートメーションプロセスで確認されているエラー：

オートメーションプロセスで確認されている問題：

業務プロセス設計書 – 年次レポートの出力

その他変更事項：

「オートメーションプロセスを効率化するために行われた**調整事項**」および「人手による方法」を、オートメーション方式に転換するために取られた措置。

現状のプロセスを改善してプロセスのオートメーション率を上げるために実施された作業：

- プロセスの仮説の立案
- 入力データの仮説の立案
- 受け入れる入力データの数またはタイプ
- ログインインターフェースのスキップと背景情報の収集
- ファイルを開かずに背景データを抽出
- データ変換 / 書式設定

レポートの出力：ワークフローで提供されるログの出力方法と書式（ローカルログレポートまたは Orchestrator ログ）はここで指定

書式はビジネスユーザーが指定すること

ワークフローとスクリプト：各ワークフローとワークフローの実行シーケンスはここに簡潔に記載すること